

伊能図で読み解く川越の江戸時代

左の写真は、文政4年(1821)の川越城周辺を描いた絵図を拡大したものです。日本地図を作ったことで著名な伊能忠敬が測量し、川越城(松平大和守居城)やその周辺が描かれています。

忠敬が川越へ来たのは、文化11年(1814)と同13年の2回。忠敬が実際に歩いた道は、赤い線で示されています。川越城の左側にある赤い線が交わった場所は、現在の札の辻交差点で、川越城から下に向かう道は川越街道です。また、喜多院周辺に赤い線があるのは、文化11年5月20日に、川越の城下町を調査した後、喜多院の境内でも測量したためです。その様子は、千葉県香取市にある伊能忠敬記念館が所蔵する「測量日記」に詳しく記されています。

博物館では、収蔵品展「絵図・地図で読み解く川越」を9月3日(日)まで開催中です(入館料200円)。同展では、江戸から昭和30年代までの資料約50点を展示し、川越の発展の様子を紹介しています。併せて、川越城本丸御殿では、同記念館が所蔵する「伊能図の原寸大パネル(関東地域部分)」を大広間の床二面に8月15日(火)まで展示しています(入館料100円)。忠敬が測量した絵図のパネルの上を歩いて、川越の歴史を眺めてみてはいかがでしょうか。

伊能図大図写 第88号武蔵(部分・国立国会図書館蔵)



イチジク



「朝採りした新鮮なイチジクをお客様に食べていただきたい」

と話すのは、石田でイチジクを栽培する長島秀昭さん・加代子さんご夫婦。甘みが強く、日持ちのよい「柘井ドーフィン」という品種を栽培しています。

イチジクは寒さにとても弱く、剪定した枝に稲わらを巻いて保温しないと、冬を越すことができません。春先には、枝からたくさん出る新芽の中から、良質なものを残して9割程摘み取ってしまうため、1つの枝から収穫できるのは20個ほどです。厳選され、真っ赤に完熟したイチジクは「鉄分やカリウムをはじめ、食物繊維も多く含

んでいるため、美肌や夏バテ防止に効果があるといわれているんですよ」と長島さん。また、出荷当日の早朝に収穫することで、みずみずしさと、濃厚な甘さを保つことができるそうです。



長島さんのイチジクは、8月下旬になると、あぐれっしゅ川越や伊佐沼農産物直売所などで購入できます。川越産の新鮮なイチジクを、ぜひ味わってみませんか。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜
米、サツマイモ、巨峰、クリ、ナス、キュウリ、タマネギ、オクラ、長ネギ、コマツナ、ジャガイモ



でみてはいかがでしょうか。満点。皆さんも一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

そ 川越と言えば、一番街や時の鐘が有名で、多くの方が訪れます。しかし、近年は駅前広場のリニューアル、ウエスタ川越でのイベントなど川越駅西口エリアもにぎわいを見せています。

編集後記
ぶらぶら

広報川越 1396

「声の広報川越(CD)」 「点字広報川越」を作成しています。ご希望の方は、広報室までご相談ください。

☎224-5495 ☎225-2171

■発行日/平成29年8月10日(毎月10日・25日発行)

■発行/川越市 〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
市役所代表 ☎049-224-8811 ☎049-225-2171

■編集/広報室

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。

リサイクル適性(A)

Fontworks
UD Font